

Part 1

N：やあ、ミランダの明日の予定を知りたいんだ。

A：分かったわ。入って。

N：誰がコーディネートしたの？

A：これ？自分で適当に合わせただけよ。

N：来て。ん〜、回って。素晴らしいね。本当に、

A：そう？

N：美しいよ。本当さ。私の役目は終わったな。

A：おお。

N：お祝いだ。シャンパンを持ってくるよ。

A：いいわ。何に乾杯するの？

N：夢のような仕事に乾杯するのさ。大勢の女性が就きたい仕事だ。

A：数カ月前に手に入れたものね。

N：君のことじゃないよ。

A：ん？

N：ジェームズ・ホルト。

A：ん？

N：マッシモ・コルテリオーニがジェームズの会社に投資して世界市場に進出するんだ。

A：うん。

N：バック、靴、香水。全てやっているんだ。そしてジェームズにはパートナーが必要だ。そのパートナーは私になる。

A：ミランダは、

N：いやいや、ミランダは知ってるよ。彼女の推薦だからね。まさか。でないと、

A：でもでも、辞めてしまうのね。あなたのいない Runwayなんて想像できないわ。

N：分かっている。でも、すごく興奮してるんだ。18年ぶりに自分の人生を変えられるんだ。すごいよ。パリにまた来れるし、その時は本当にパリを満喫できる。

A：とにかく、おめでとう。ナイジェル、苦勞が報われたわね。

N：その通りだよ。サイズ6。

A：サイズ4よ。

N：本当？

A：乾杯。

N：君に乾杯。

A：私たちに。

N：うん。

PART 2

A：はい、ミランダの行動には私が理解できないこともあるが、

C：あなたは彼女のことを憎んでいます。それを受け入れてください。

A：いいえ

C：彼女は有名なサディストです。

A：わかりました。彼女はタフです。しかしもしミランダが男性だったら、彼女がどれほどすごい人かは誰も彼女についてなにも気づけないでしょうね。

C：ごめんなさい。それは不可能です。信じられません。あなたは彼女を守るの？

A：そうだよ

C：あなたは本当に目を丸くしながら新聞を配っていた女の子ですか？
あなたは闇へ渡ろうとしています。

A：わたしはそれに怒っています。

C：そうすべきではありません。魅力的ですね。

Part 3

A：どこに向かっているのかわかる？だって、、、

C：大丈夫だよ

A：私はわかんないよ

C：心配しないで、僕はこの街を自分の庭のようにしているんだ。

ここは世界で一番好きな場所なんだ

ガートルード・スラインはかつて「アメリカは私の国であり、パリは私の故郷である」と言っていたんだ。本当だよ

A：あなたの仕事って？そんなものを書き留め、ファイルにして、私たち女の子向けの記事にするの？

C：僕はクリスチャン・トンプソンだ、これが僕のやり方だ。

A：それがあなたのやり方なのね、なるほど

C：僕はフリーランスだから自由な時間がたくさんあるんだ。

A：なんでみんながパリに夢中なのか私には理解が出来なかったけど、、、

素晴らしい街だ

ダメだ、ごめんなさい、ダメなの。ネイトと数日前別れたばかりだし、、、ああ、ワインを飲みすぎてよく聞こえないし、見えないし、頭もうまく働かないよ。

私はあなたのことをほとんど知らないし、見ず知らずの街にいるのにもう言い訳は尽きたわ

C：良かった。

PART 4

A：はい。

C：おめでとう

A：これは一体なんですか？

C：何に見える？見本だよ。

A：？

C：ジャクリーンがアメリカ版の編集者になったらどういうふうに見えるかな。

A：ミランダの後任になるの？

C：そして私は全てのコンテンツを編集できるようになるの。びっくりした？ジャクリーンはミランダよりずっと若いしね。彼女は新しいアイデアをもっている。アメリカ版ランウェイは高級な雑誌なのは言うまでもない。コスト削減にもなるし。？

A：ミランダガッカリするよ。ランウェイは彼女の人生。彼はミランダにそんなことはできないでしょう。

C：できるよ。パーティーの後に伝えるよ。

A：じゃあ今彼女は何も知らないの？

C：彼女は偉大だよ。だから大丈夫。

A：行かなきゃ。

C：アンディーアンディー大丈夫だよ。ベイベー大丈夫だよ。

A：バカにしないで。

PART 5

M：もしもし？

A：よかった、ようやく繋がった！

M：なんですって？

A：今すぐジャックリーヌについて話すことがあります、彼女が、、、*クッ、クッ、クッ*、、、

R：はい？

A：こんにちは、ご迷惑をかけて申し訳ないのですが、もしかけたら、、、

M：ついに頭おかしくなったの？

A：ミランダお話があります

M：二度と邪魔をしないで

A：でも、、、ちょっと、、、ミランダ！

A：ミランダ、待ってくださいミランダ

お話があります、アーヴが *Runway* の編集長をジャックリーヌにしようとしています、
そして、クリスチャンがジャックリーの下で働くと言って、
アーヴは今日この事をあなたに伝えるつもりです。

ですがこのことを伝えれば、あなたがそれを解決できると思って

M：ねえ、フリージアの匂いがしない？

A：え？、、、使わないように業者には指示をしています

M：もし、フリージアを見つけたら、私はとってもがっかりするわ